



西之表市・安納
日高三男さん(70)

西之表市安納の日高三男さん(70)は、高校卒業後から52年間農家を続けており、県農協野菜部会長等を歴任され、野菜生産者のリーダーとして長年地域農業をけん引してきました。

また、安納芋のブランド化や苗の効率的増殖技術の確立など、農業振興に大きく貢献されています。

現在は、夏に青果用甘藷の安納芋を10町歩、冬に馬鈴薯を10町歩作付けしており、令和元年度には、安納芋の総出荷量は管内第1位、馬鈴薯は第2位となりました。

安納芋と馬鈴薯を

選んだきっかけ

就農当時は、オランダエンドウ等の豆類が流行していたこともあり、豆類1町歩と澱粉甘藷8反歩を主体としていましたが、2007年、種子島の主要園芸品目である安納芋がK GAPに認証されたことで、安納芋の生産を考えるようになりました。

試験的に2反歩作付けしたところ、収量もあり、作りやすいことに魅力を感じ、安納芋へ転作することを決意しました。

安納芋は面積が勝負と考え、近所の農家や知人に声掛けし、畑を借りて、作付面積を10町歩へ拡大しました。

馬鈴薯については、安納芋と同じく面積が勝負で、どうせ拡大するのなら、30年以上続けた豆類や澱

粉甘藷を思い切って辞めて、冬は馬鈴薯一本で勝負していこうと決断しました。

苦悩なし

純粋に農業が楽しい

農業を続けてきた中で、苦勞したり辛いと感じたことはありません。農業も会社員も業種は違えど同じ『仕事』。農業が好きだからこそ、何年同じ作業を続けても楽しくできます。

「何事も継続」です。面積が拡大したところで、作業内容自体は40年前と変わりません。

その結果、2009年に自分の馬鈴薯がK GAP認証を受けました。品質向上のための特別な作業はしていませんが、継続して続けたことが結果に繋がったと思います。

目標は高く

更に面積拡大へ

2014年に株式会社日高農産を設立し、雇用体制が確立され、農産物の管理体制も大きく改善しました。今後は、安納芋と馬鈴薯の作付面積を20町歩に拡大することを目標にしていきたいです。

昨年から基腐病によって、安納芋の作付けに大きな影響を与えています。安納芋は、種子島の大切な主要園芸品目ですので、無くなることのないように尽力していきたいと思っています。